



2-6 JICA 関西訪問

12月15日(月)、2年6組 LAC の生徒たちが JICA 関西を訪問し、一日研修をしました。JICA 関西の概要の説明を受けたあと、海外協力隊でエチオピアに派遣された齋藤さんのお話を聞き、昼食にはケニア料理のお弁当を食べて、午後は展示室を見学してから、ワークショップをしました。



- ・世界には196カ国あり、約82億3000万人が暮らしている。
- ・開発途上国は世界に150カ国あり、60億人以上が住んでいる。これは全人口の約80%以上にあたる。
- ・「国際協力」とは、先進国が開発途上国を助けるという一方的なことではなく、相互で助け合うこと。
- ・JICAは「信頼で世界をつなぐ」というモットーで活動している。



齋藤さんによると、もともと国際協力に興味があって、行きたいと思ったのではない、ということでした。東日本大震災を経験して初めてボランティア活動を行い、開発途上国を含むたくさんの国から支援を受けて「お返しに何かできれば」という思いを抱いたことから、得意だったPCのスキルを活かして海外協力隊に応募されたとのこと。

“「国際協力」というと、何かとても難しいことのように思うかもしれないけれど、相手のことを知り、一緒に楽しむことも国際協力の一歩になる。決してハードルの高いことではないので、日本でもできる身近なことを考えて動いてもらえた”というメッセージをいただきました。



展示室にはいろいろな資料があったり、世界のことを知るクイズがあったり、民族衣装があって試着できるようになっていました。



昼食はケニア料理のお弁当を食べました。食べやすく、おいしかったです！



午後のワークショップでは「本当に必要なモノはなにか」というテーマで個人やグループでさまざまな問い合わせについて考えました。

一番最初の問い合わせ「もし今、家から避難しなければならないとして、3つだけ持っていくとしたら何を持っていくか?」では、ほとんどの人がスマホをあげていましたね。でも、問い合わせが進むにつれて本当に必要なモノは、目に見える物、触れる物だけかなと考え、1人では考えが及ばなかったことも、グループやクラス全体で意見をシェアすると違った角度から見えてきました。

最終的に「今自分が一番大切にしたいモノ」を書いてもらったときには、目に見える物を書いた人は誰一人いませんでした。最初の答えとずいぶん変わっていったなと感じました。これらの問い合わせには正解も、不正解もありません。自分の心がそのときに決めるのを信じて、「これが大切!」と思うこ

とを大切にできる人になってほしいなと思います。そして、その思いを言葉にして届けられる人になってほしいなと思います。

